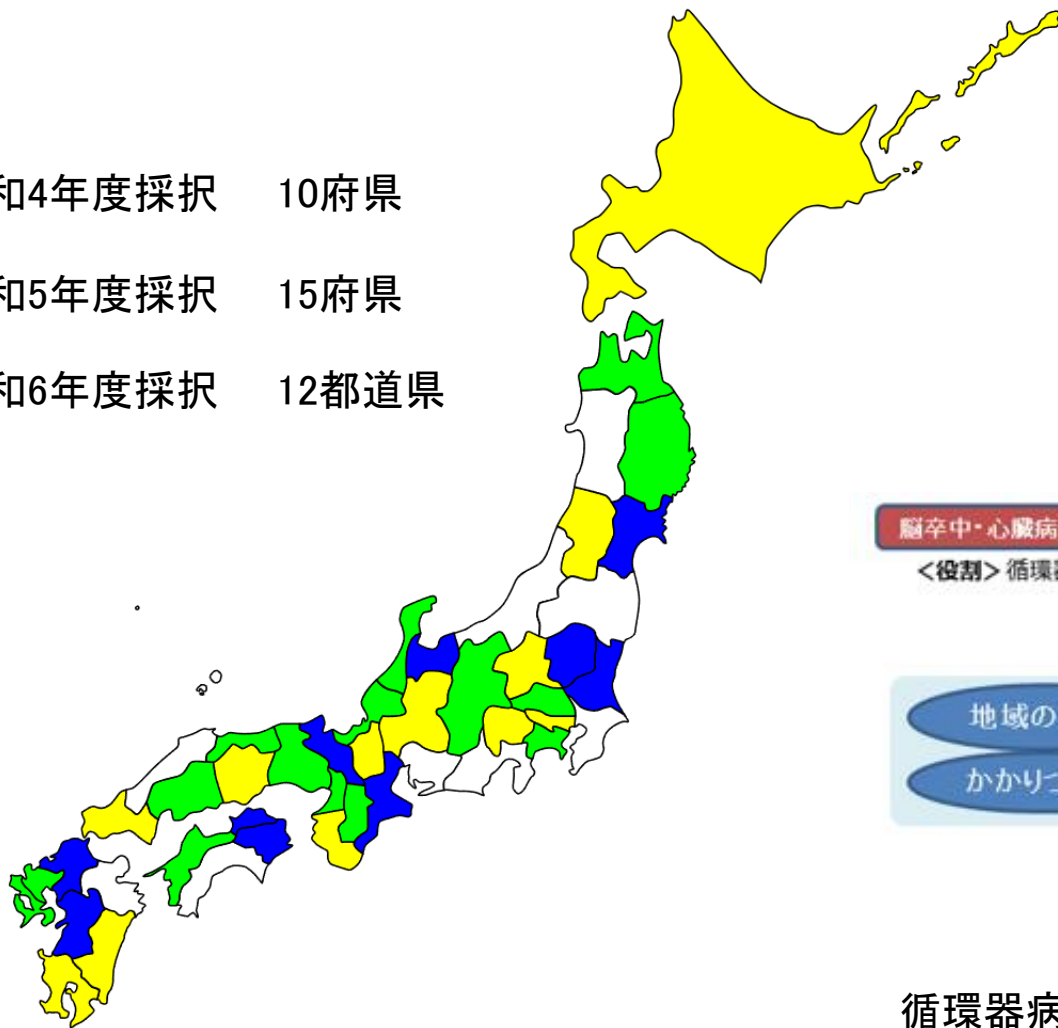


SCPA-Japan 京都府支部ミーティング
2024-06-12

脳卒中・心臓病等総合支援センター

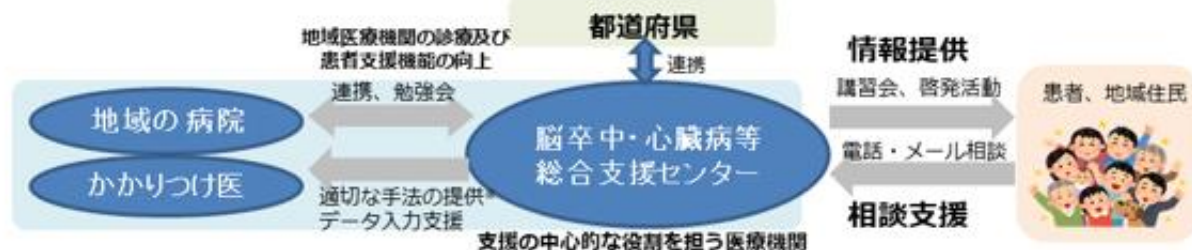
- 令和4年度採択 10府県
- 令和5年度採択 15府県
- 令和6年度採択 12都道県



脳卒中・心臓病等総合支援センターのイメージ

本モデル事業の有効性を検証した上で、好事例として横展開を図る等により将来的に全国に広げることを検討

<役割> 循環器病に関する情報提供及び相談支援の、地域における核となり中心的な役割を担う



循環器病対策推進基本計画の**患者支援に関する重点施策**を

各都道府県のハブとなって**行政・地域医療機関・各団体**と連携して進める

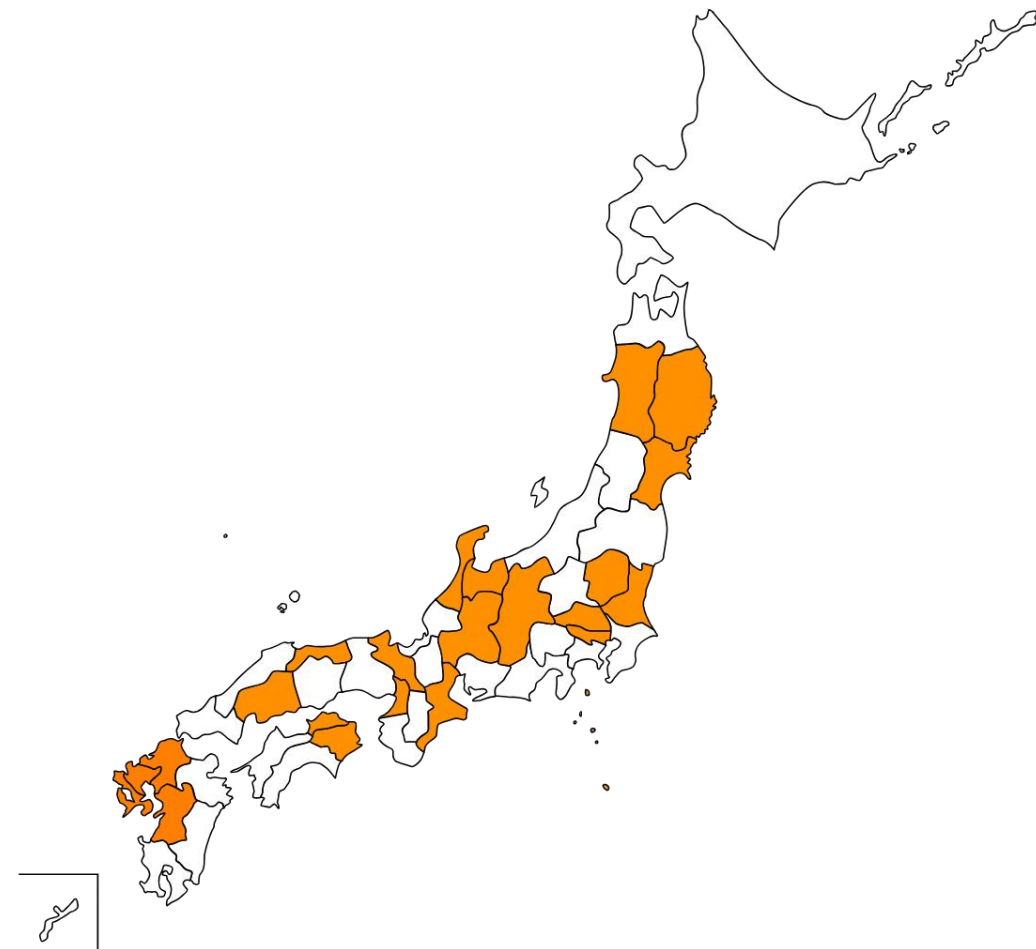


一般社団法人日本脳卒中医療ケア従事者連合
Stroke Care Professionals Association Japan (SCPA-Japan)

SCPA-J都道府県支部設置(準備中を含む) 22都府県
(2024年6月1日現在)

SCPA Japan京都府支部

- 一般社団法人 京都府医師会
- 公益社団法人 日本脳卒中協会京都府支部
- 一般社団法人 京都医療ソーシャルワーカー協会
- 公益社団法人 京都府介護支援専門員会
- 一般社団法人 京都府理学療法士会
- 一般社団法人 京都府言語聴覚士会
- 一般社団法人 京都府作業療法士会
- 一般社団法人 京都府薬剤師会
- 一般社団法人 京都府薬剤師会 病院診療所部会
- 公益社団法人 京都府栄養士会
- 公益社団法人 京都府看護協会



京都府 脳卒中にかかわる組織・施設の連携会議

2022

2023

2024

PSC会議(診療責任者)

- 第1回 2022.10
- 第2回 2022.12
- 第3回 2023.3
- 第4回 2023.6
- 第5回 2023.9
- 第6回 2024.1
- 第7回 2024.4
- 第8回 2024.6

回り八脳卒中連携会議(診療責任者)

- 第1回 2024.4
- 第2回 2024.9

職種間交流



SCPA-Japan京都府支部会議

- 第1回 2023.1
- 第2回 2023.3
- 第3回 2023.6
- 第4回 2023.9
- 第5回 2023.12
- 第6回 2024.3
- 第7回 2024.6

第2期循環器病対策推進基本計画 概要

全体目標

2040年までに3年以上の健康寿命の延伸及び循環器病の年齢調整死亡率の減少

個別施策

循環器病：脳卒中・心臓病その他の循環器病

【基盤】循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備

循環器病の診療情報を収集・活用する公的な枠組みの構築

1. 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発

- 循環器病の発症予防及び重症化予防
- 子どもの頃から国民への循環器病に関する正しい知識（循環器病の予防、発症早期の適切な対応、重症化予防、後遺症等）の普及啓発の推進
- 循環器病に対する国民の認知度等の実態把握

3. 循環器病の研究推進

- 循環器病の病態解明、新たな診断技術や治療法の開発、リハビリテーション等に関する方法に資する研究開発の推進
- 科学的根拠に基づいた政策を立案し、循環器病対策を効果的に進めるための研究の推進

2. 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実

- ① 循環器病を予防する健診の普及や取組の推進
- ② 救急搬送体制の整備
- ③ 救急医療の確保をはじめとした循環器病に係る医療提供体制の構築
- ④ リハビリテーション等の取組
- ⑤ 循環器病の後遺症を有する者に対する支援
- ⑥ 循環器病の緩和ケア
- ⑦ 社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援
- ⑧ 治療と仕事の両立支援・就労支援
- ⑨ 小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策
- ⑩ 循環器病に関する適切な情報提供・相談支援

循環器病対策の総合的かつ計画的な推進の確保のために必要な事項

- (1) 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化
- (2) 他の疾患等に係る対策との連携
- (3) 感染症発生・まん延時や災害時等の有事を見据えた対策
- (4) 都道府県による計画の策定
- (5) 必要な財政措置の実施及び予算の効率化・重点化
- (6) 基本計画の評価・見直し

<循環器病の特徴と対策>



脳卒中・心臓病等総合支援センター事業と関連する研究班

令和5年度厚労科研費FA-18
回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究(主任研究者:宮本 享)

脳卒中SWG

心臓病SWG



脳卒中・心臓病等総合支援センター事業
採択府県における実態調査

日本脳卒中学会

日本脳卒中医療
ケア従事者連合

日本循環器学会

日本心臓リハビリ
テーション学会

両立支援調査2023

令和5年度厚労科研費FA-18

回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究(主任研究者:宮本 享)

● 対象府県

岩手県・宮城県・栃木県・富山県・京都府・福岡県・熊本県 の7府県

● 調査内容

当該府県のすべてのPSCおよび回復期リハビリテーション病院から直接自宅退院した脳卒中患者の復職率および両立支援の実施状況を調査

● 調査期間

2023年10月～2024年3月

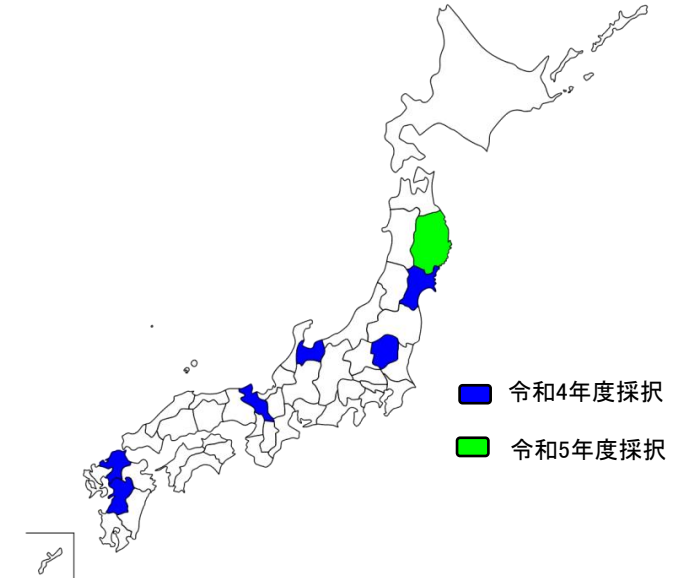
フォローアップ期間:上記期間中の退院～6ヵ月後・18ヵ月後

● 期待される効果

悉皆性のあるデータに基づいた 下記2点の把握

① 脳卒中後の復職率

② 「療養・就労両立支援料」の現実(算定状況や算定困難な理由)



両立支援調査2023 第1回中間報告

24/5/8 暫定値(症例登録×切後)

- 参加登録施設数 **203** 施設
- A: 登録症例数**1638**人/6か月 (2023Oct.-2024Mar.)
- B: 7府県 脳卒中患者数(発症7日以内) **38786** 人/12か月 (PSC年次報告データ 2022Jan.-Dec.)

急性期脳卒中患者のなかで、自宅退院した生産年齢就労者*の割合

$$=A/B \times 12/6 = 8.45\%$$

* 事業主は含まない被雇用者

両立支援の潜在的対象者は
思いのほか、少ない！

脳卒中のケアに係る職種は、脳卒中患者の就労支援を意識する必要がある

京都府産保センターの両立支援出張相談窓口

●独立行政法人労働者健康安全機構
京都産業保健総合支援センター



**病気(がん等)になっても
仕事を続けたい
会社を辞める前に
まず相談を!
病気の治療と仕事の
両立を支援します**

京都産業保健総合支援センターでは、労働者の方が治療を続けながら安心して働き続けることができる職場環境作りを支援(無料)しています。
がん、脳卒中、心疾患、糖尿病、肝炎、その他難病など、回復・継続して治療が必要となる身体の病気が対象です。離職前に一度相談してみてください。

両立支援促進員が同席することも可能です。
※ご本人、会社の同意が必要です。

治療と仕事の両立のための手順(例)



【定期開設相談窓口：予約制】

※対応疾病

京都大学医学部附属病院	がん相談支援センター	075-366-7505(直通)	毎月 第3水曜日 9:30~12:30	
京都府立医科大学附属病院	がん相談支援センター	075-251-5283(直通)	毎月 第2木曜日 10:00~12:00	がんのみ

* 京都市立病院 : がん相談支援センター 毎月第1金曜 11:00-12:00

【随時開設相談窓口：予約制】

※対応疾病

宇治徳洲会病院	がん相談支援センター(医療福祉相談室内)	0774-20-1111(代表)	月~金 9:00~16:30 土 9:00~12:00	
市立福知山市民病院	がん相談支援センター又は地域医療連携室	0773-22-2101(内線2126)	月~金 8:30~17:15	

京都市立病院 : がん相談支援センター 毎月第1金曜 11:00-12:00

京都医療センター	がん相談支援センター(患者支援センター内)	075-641-9161(代表)	月~金 8:30~17:15	
京都第一赤十字病院	がん相談支援センター	075-533-1297(直通)	月~金 9:00~16:00	
京都岡本記念病院	がん相談支援センター	0774-48-5500(代表)	月~金 9:00~17:00	
京都第二赤十字病院	がん相談支援センター(医療相談係内)	075-212-6122(直通)	月~金 9:00~16:00	がんのみ
京都桂病院	がん相談支援センター	075-391-5811(代表)	月~金 9:00~17:00	
京都府立医科大学附属北部医療センター	がん相談支援センター	0772-46-2009(直通)	月~金 9:00~16:30	
洛和会音羽病院	がん相談センター	075-593-4175(直通)	月~土 8:30~17:00	がんのみ
京都山城総合医療センター	がん相談支援センター(地域医療連携室)	0774-72-0235(代表)	月~金 9:00~17:00	

両立支援は「がん」で整備されてきたため、
相談窓口は **がん相談支援センターに設置**されている

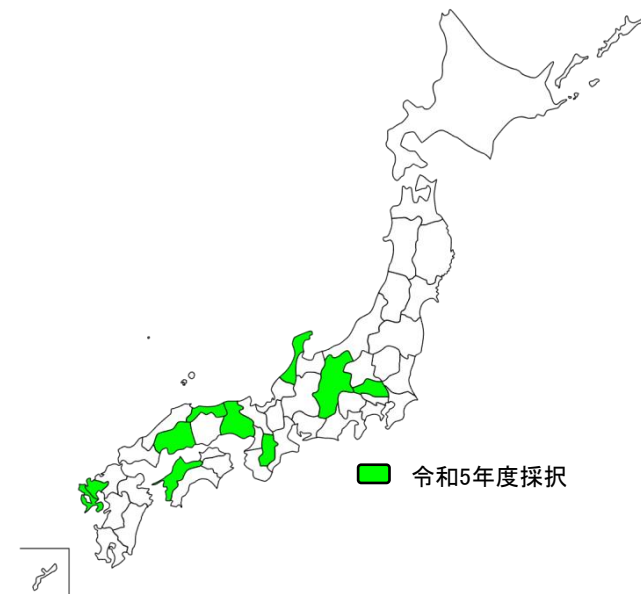
脳卒中の就労支援を扱う可能性が高い、**回りハ/PSCの相談窓口には設置されていない**

両立支援調査2024

- **対象府県** R5年度総合支援セ事業採択10県
- **調査内容**

当該県のすべての**一次脳卒中センター(PSC)**および**回復期リハ病院**から直接自宅退院した脳卒中患者の**両立支援の実施状況**を調査

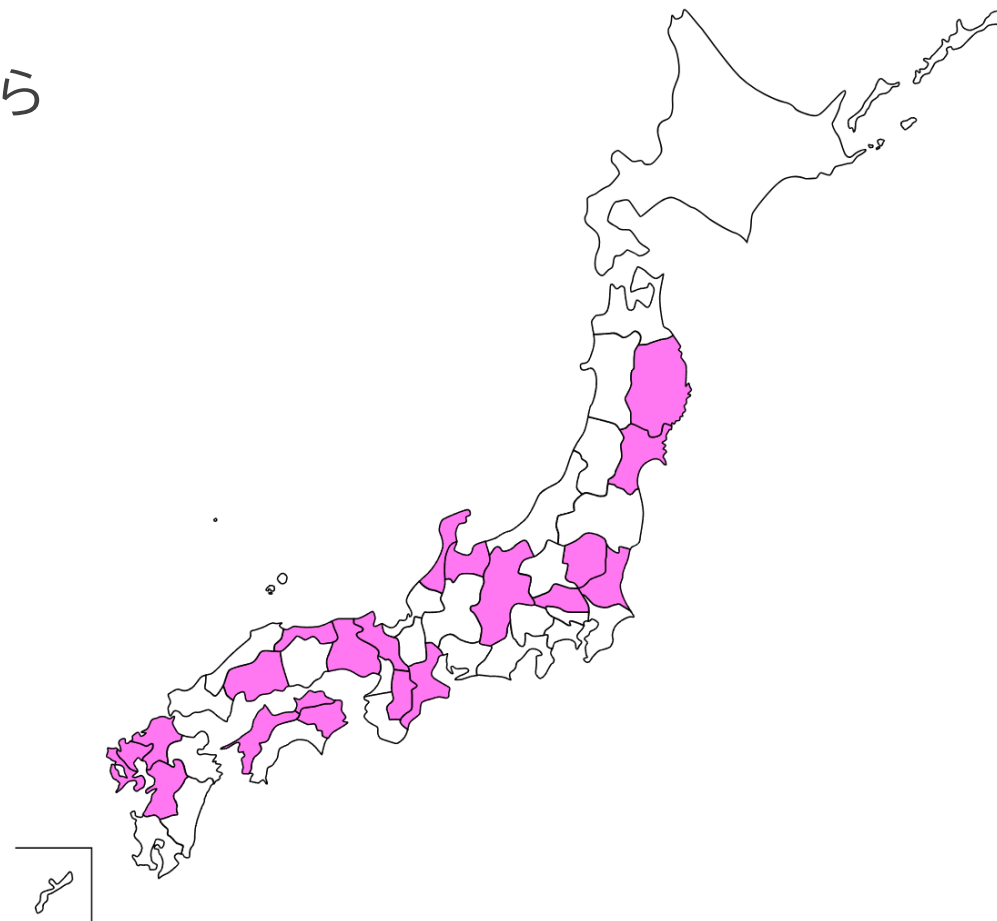
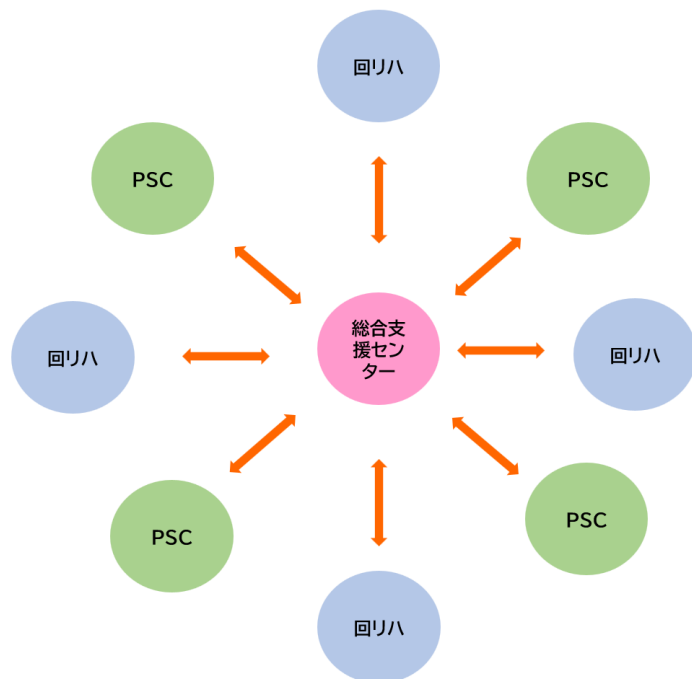
- **調査期間**
2024年10月～2025年3月
上記期間中の退院から18か月後までの間に行われた両立支援
- **期待される効果**
 - ① **脳卒中相談窓口連携会議の設立と 地域連携の活性化**
 - ② 悉皆性のあるデータに基づいた 下記2点の把握
「療養・就労両立支援料」の対象となりうる 脳卒中患者の割合
「療養・就労両立支援料」の現実(算定状況や算定困難な理由)



脳卒中相談窓口連携会議

- ▶ **すべての**PSCおよび回復期リハビリテーション病院から
脳卒中相談担当MSWが指名されて組織

- ▶ 両立支援調査の**実働組織**



研究班調査が行われる21府県で稼働(準備中を含む)
(2024年5月現在)

回復期病院から退院した脳卒中患者への両立支援の特徴

- 回リハ入院期間は短くなり、入院の主目標はADL自立による自宅復帰になっていることが多い
 - 退院後にこそ、復職のための就労支援が必要となるが、就労支援を目的とした外来リハには、診療報酬上の限界があり、十分とはいえない
- 長期療養のため、患者は休職あるいは離職していることが多い
(他疾患のように、勤務継続しながらの外来受療や短期入院ではない)
- なんらかの後遺障害(身体障害・高次脳機能障害)を有し、高次脳機能障害について患者本人が理解できていないことがあり、復職後のハードルとなる
 - 就労先には、療養だけでなく、後遺障害についての理解と配慮を求める必要がある
- 復職後も定着支援が必要である

脳卒中患者に必要な就労支援リハを行うための制度が未整備である

就労支援リハビリテーション調査

● 対象府県

脳卒中・心臓病等総合支援センターが設置されている11府県(岩手県+R4採択10府県)

● 調査内容

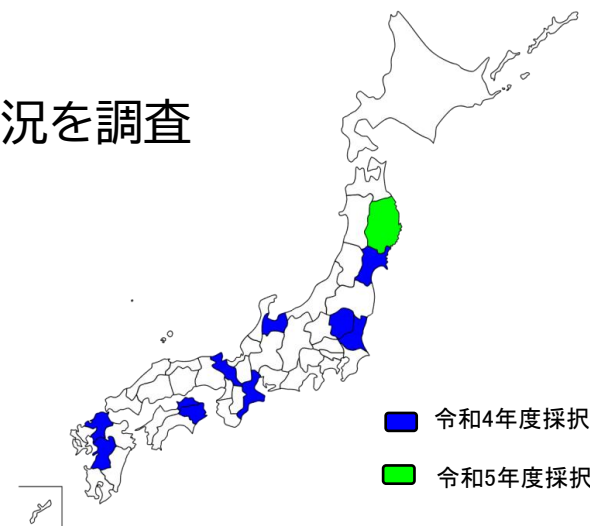
当該府県のすべてのPSCおよび回復期リハビリテーション病院から直接自宅退院した脳卒中患者に対するPT/OT/STによる就労支援リハの実施状況を調査

● 調査期間

2024年10月～2025年3月

● 調査協力

- リハビリテーションにおける職業訓練 日本理学療法士協会
- 作業療法による復職支援 日本作業療法士協会
- 失語症における復職支援 日本言語聴覚士協会



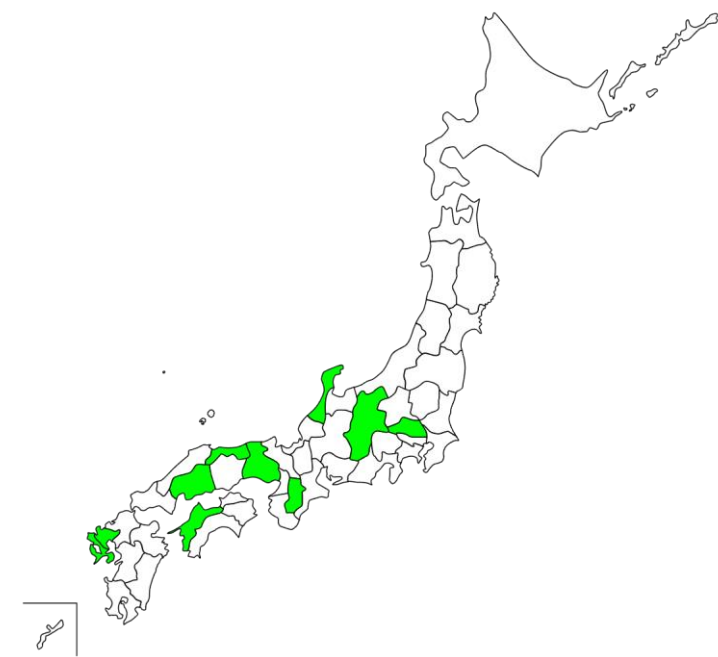
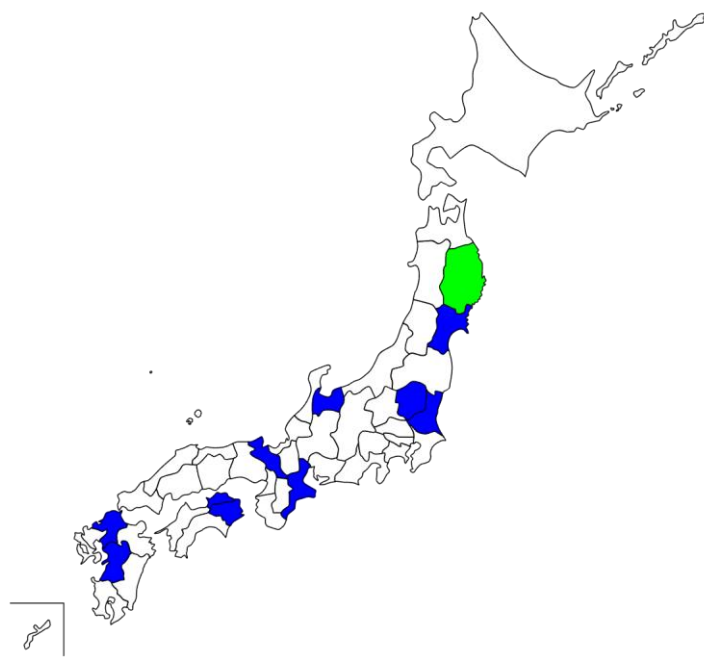
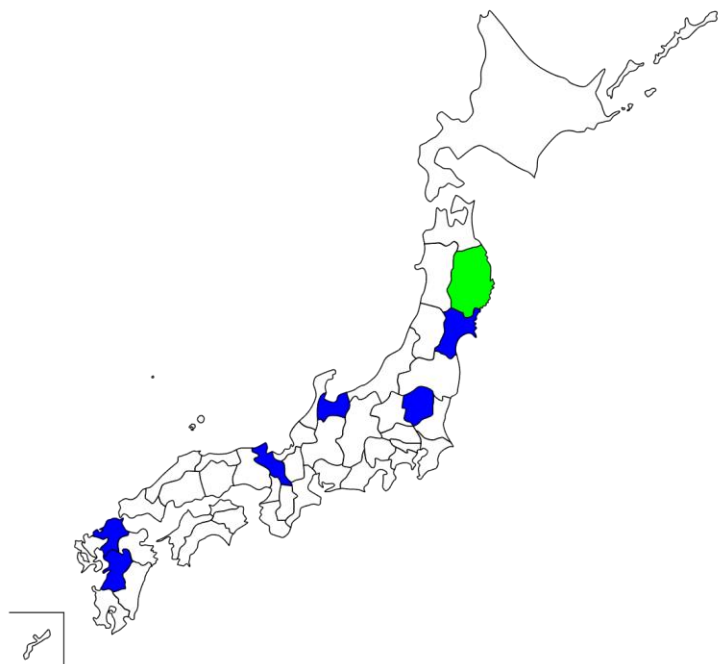
就労支援リハを必要とする患者数

指導料の対象外の職種によって、どの時期に・どれぐらいの頻度でどのような内容の就労支援が実際には行われているかを、悉皆性のあるデータで示す

両立支援調査2023

就労支援リハ調査2024

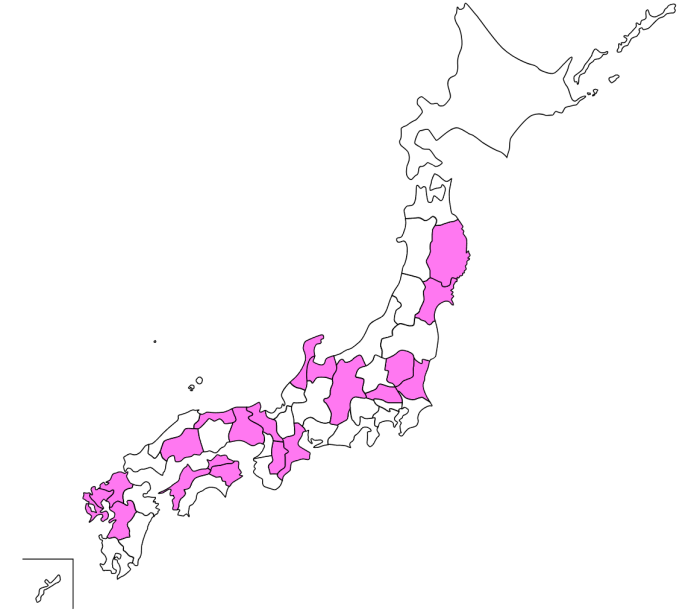
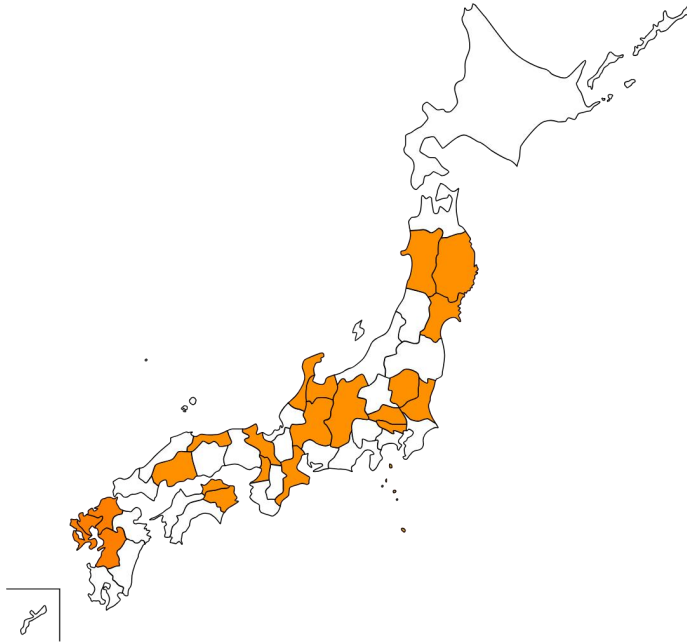
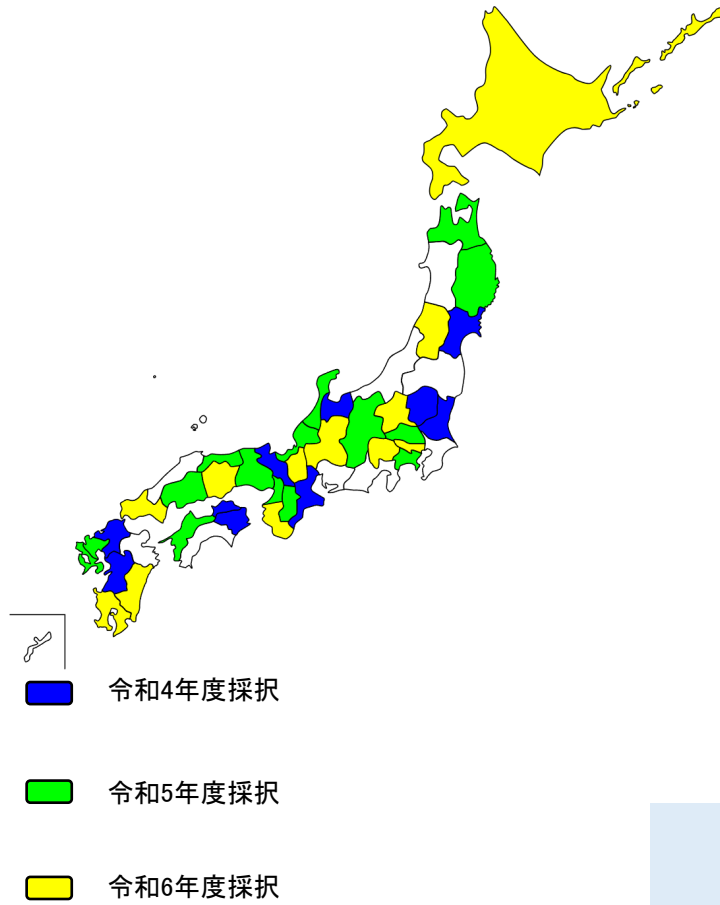
両立支援調査2024



令和4年度採択

令和5年度採択

脳卒中・心臓病等総合支援センター事業とリンクした厚労科研 調査事業



脳卒中・心臓病等総合支援センター事業 及び 厚労科研 調査事業により
都道府県単位での地域・多職種連携が大きく進んでいる

脳卒中の生活期(維持期)における連携主治医制
(京都府PSC会議・回りハ脳卒中連携会議・京都府医師会)



自宅退院した
脳卒中生活期(維持期)患者

ふたつの
通院先



かかりつけ医療機関



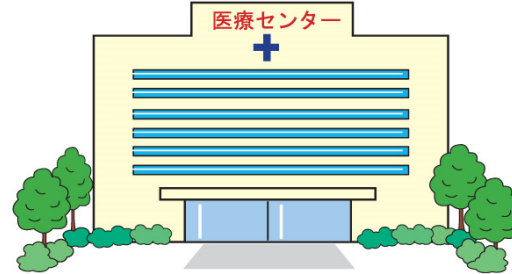
かかりつけ医

(月1回 程度)

- 療養・生活指導 など
- 処方
- 血液検査



PSC 脳卒中相談窓口



脳卒中F/U外来 担当医

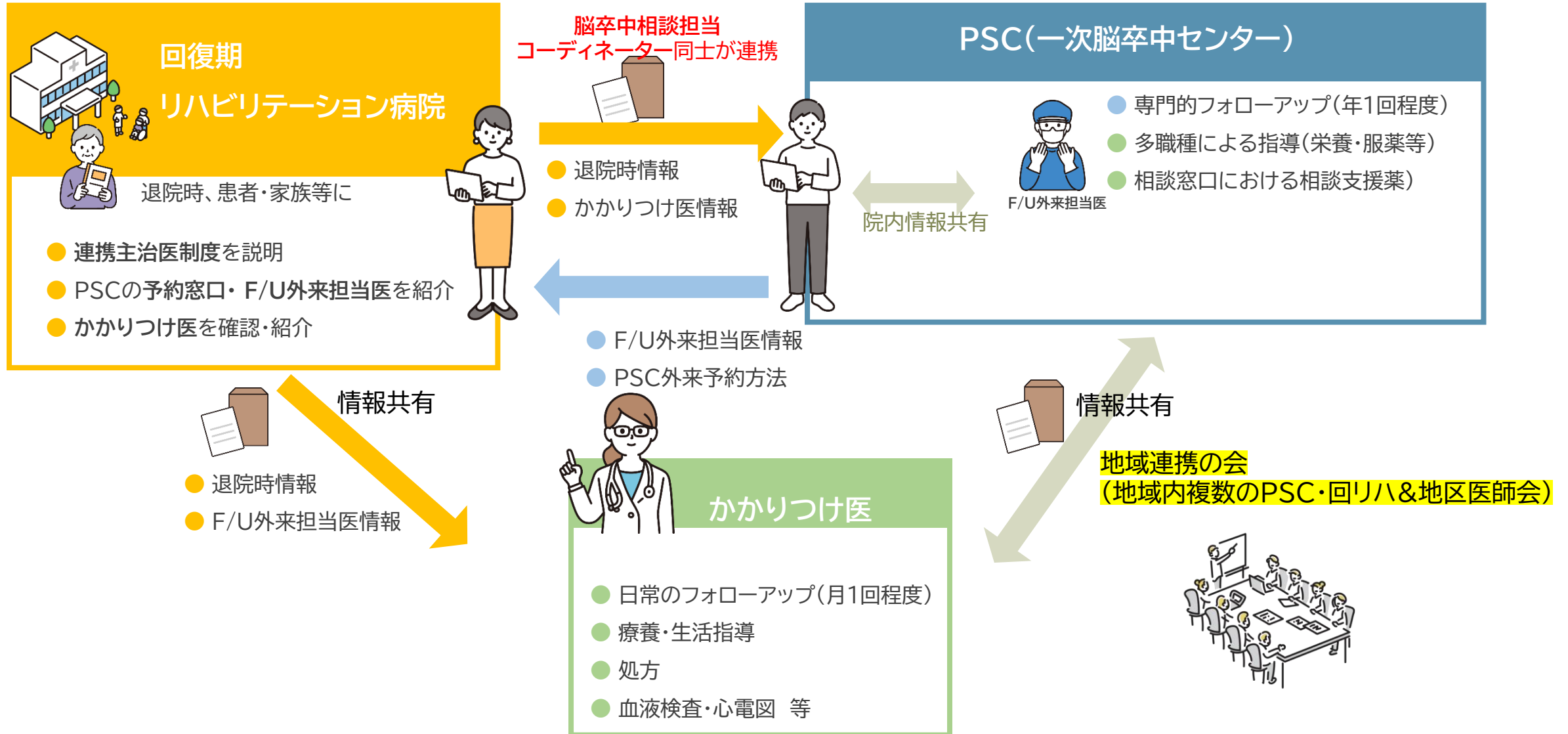
(年 1-2回程度)

- 画像検査
- 循環器病療養指導
- 服薬内容確認など

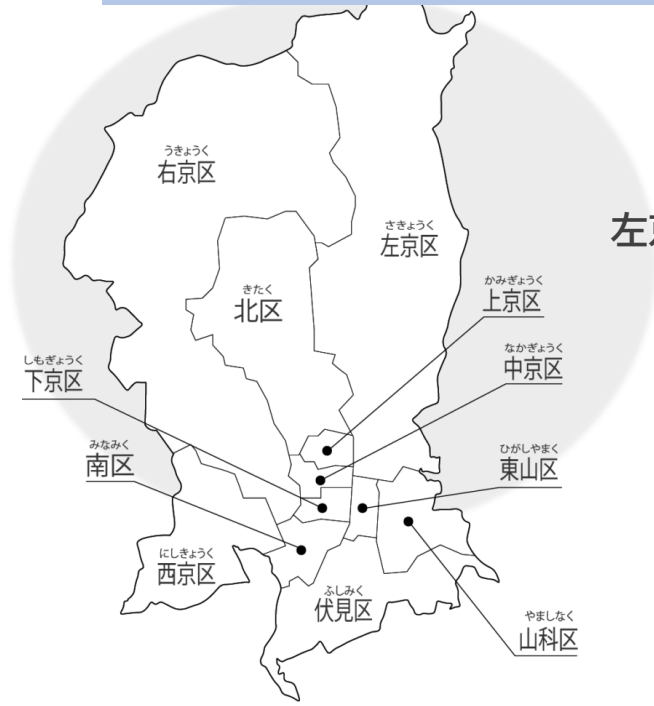


相談支援・情報提供

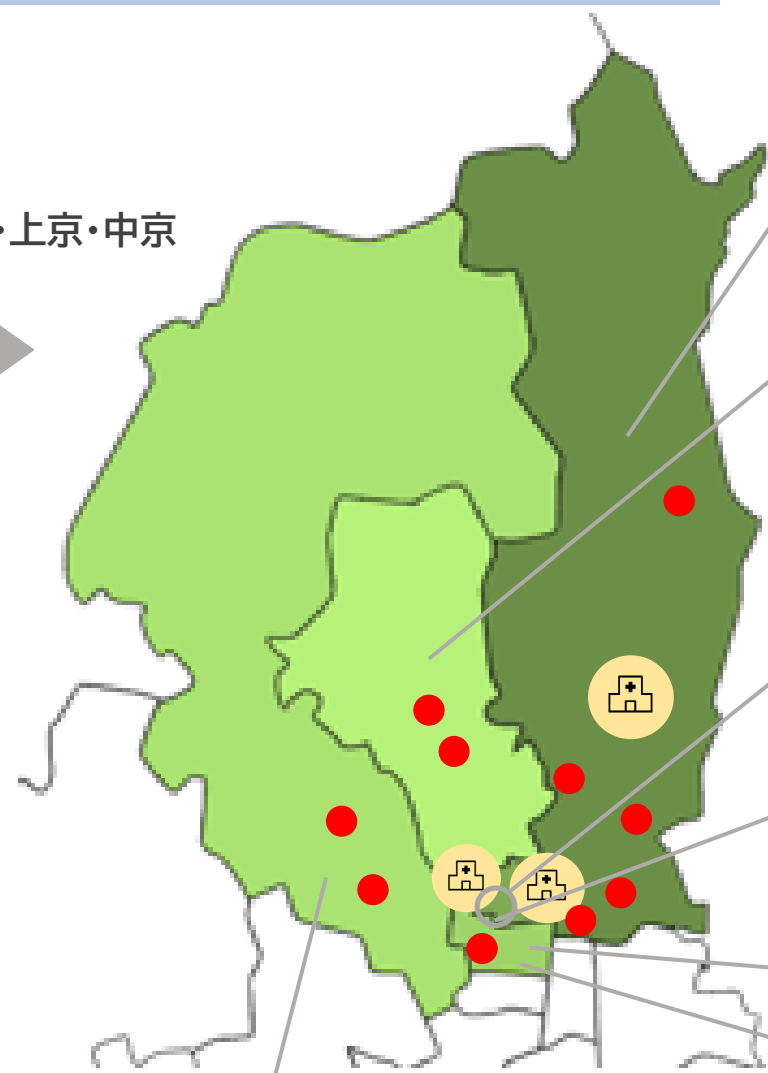
脳卒中生活期における連携主治医制



京都市北部エリアにおける脳卒中地域連携の会



左京・北・右京・上京・中京



左京区医師会

北区医師会

上京東部医師会


西陣医師会

中京東部医師会

中京西部医師会

右京区医師会

地区医師会 7 地区医師会

 一次脳卒中センター機関 3機関
(府立医大・第二日赤・京大)

 回復期リハビリテーション病院 10機関

京都市北部エリア 脳卒中地域連携の会

共催 一般社団法人日本脳卒中学会 京都府脳卒中对策推進委員会
京都市北部エリア 一次脳卒中センター3施設
(京都第二赤十字病院・京都府立医科大学附属病院・京大病院医学部附属病院)



2024 Sat.
7.13
14:00-16:30

会場 対面開催形式 後日動画配信を予定しています

京都大学 医薬系総合研究棟 藤多記念ホール
<https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/access/campus/>



Access
(68番の建物です)

*当日のプログラムは裏面
をご参照ください

参加対象

- 京都府医師会会員
特に 左京医師会・京都北医師会・上京東部医師会・京都市西陣医師会・右京医師会・
中京東部医師会・中京西部医師会 にご所属の先生方は奮ってご参加ください
- 京都市北部*の回復期リハビリテーション病院の医師・医療ソーシャルワーカー等
* 左京区・北区・上京区・右京区・中京区
- 一次脳卒中センター3施設#の脳卒中専門医・医療ソーシャルワーカー等
京都第二赤十字病院・京都府立医科大学附属病院・京大病院

上記以外の医療関係者のご参加も大歓迎です

「脳卒中生活期におけるかかりつけ医」登録について

- ▶ 「脳卒中生活期における連携主治医制度」を推進しております
- ▶ 本会終了後、本取り組みにご同意いただける医療機関を「脳卒中生活期におけるかかりつけ医」として登録・リスト化し、京都市内全ての一次脳卒中センターおよび回復期リハビリテーション病院49機関において患者・家族等に情報提供・紹介させていただきます

参加申込み

右記のQRコードもしくはリンクよりご登録ください
申込〆切：7月5日(金)
<https://forms.gle/cQZgHBpNw63hbCCe8>



京都市北部エリア脳卒中地域連携の会 プログラム

- 開会挨拶 松井道宣 (一般社団法人 京都府医師会 会長)
- 「京都府における脳卒中生活期連携主治医制の展開」
司会 松井道宣 (一般社団法人 京都府医師会 会長)
演者 宮本 享 (京都大学医学部附属病院 脳卒中療養支援センター長)
- 「脳卒中生活期に必要とされる療養指導」
司会 眞木崇州 (京都大学医学部附属病院 脳神経内科講師)
演者 永金義成 (京都第二赤十字病院脳神経内科部長)
- 指定発言「脳卒中生活期における連携主治医制に かかりつけ医が望むこと(仮)」
司会 永金義成 (京都第二赤十字病院 脳神経内科部長)
児玉直俊 (京都近衛リハビリテーション病院 病院長)
演者 左京医師会・京都北医師会・上京東部医師会・京都市西陣医師会・右
京医師会・中京東部医師会・中京西部医師会・各地域医師会

脳卒中生活期におけるかかりつけ医登録

「回復期から生活期における連携の必要性:各立場からの提言」

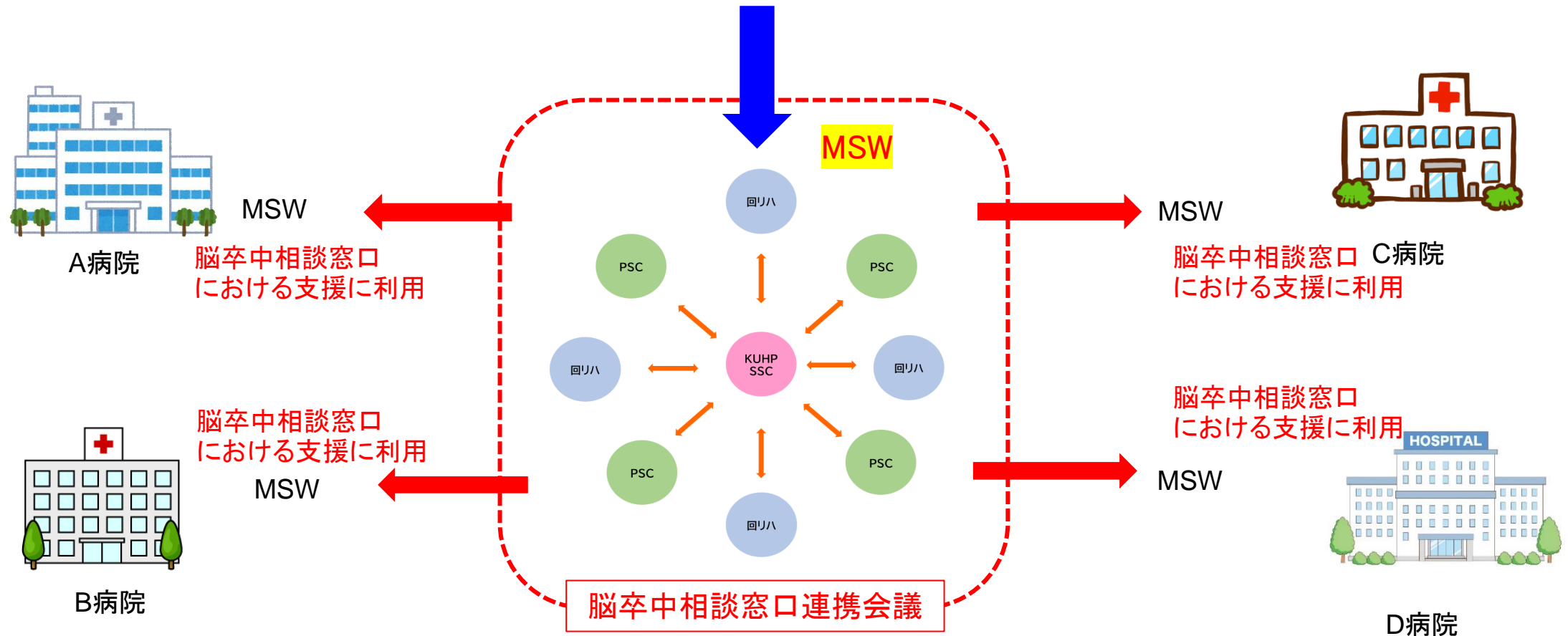
- 司会 大川将和 (京都大学医学部附属病院 脳神経外科講師)
尾原知行 (京都府立医科大学附属病院 脳神経内科講師)
- パネリスト
辻山健太 (京都大原記念病院グループ 医療連携推進責任者)
奥田敏雄 (左京区在宅医療・介護連携支援センター)
多胡和樹 (洛和会音羽リハビリテーション病院 薬剤部課長)

- 意見交換
- 閉会挨拶 宮本 享 (京都大学医学部附属病院 脳卒中療養支援センター長)

会議終了後、フリー形式での名刺交換交流の場を設けております (参加自由)

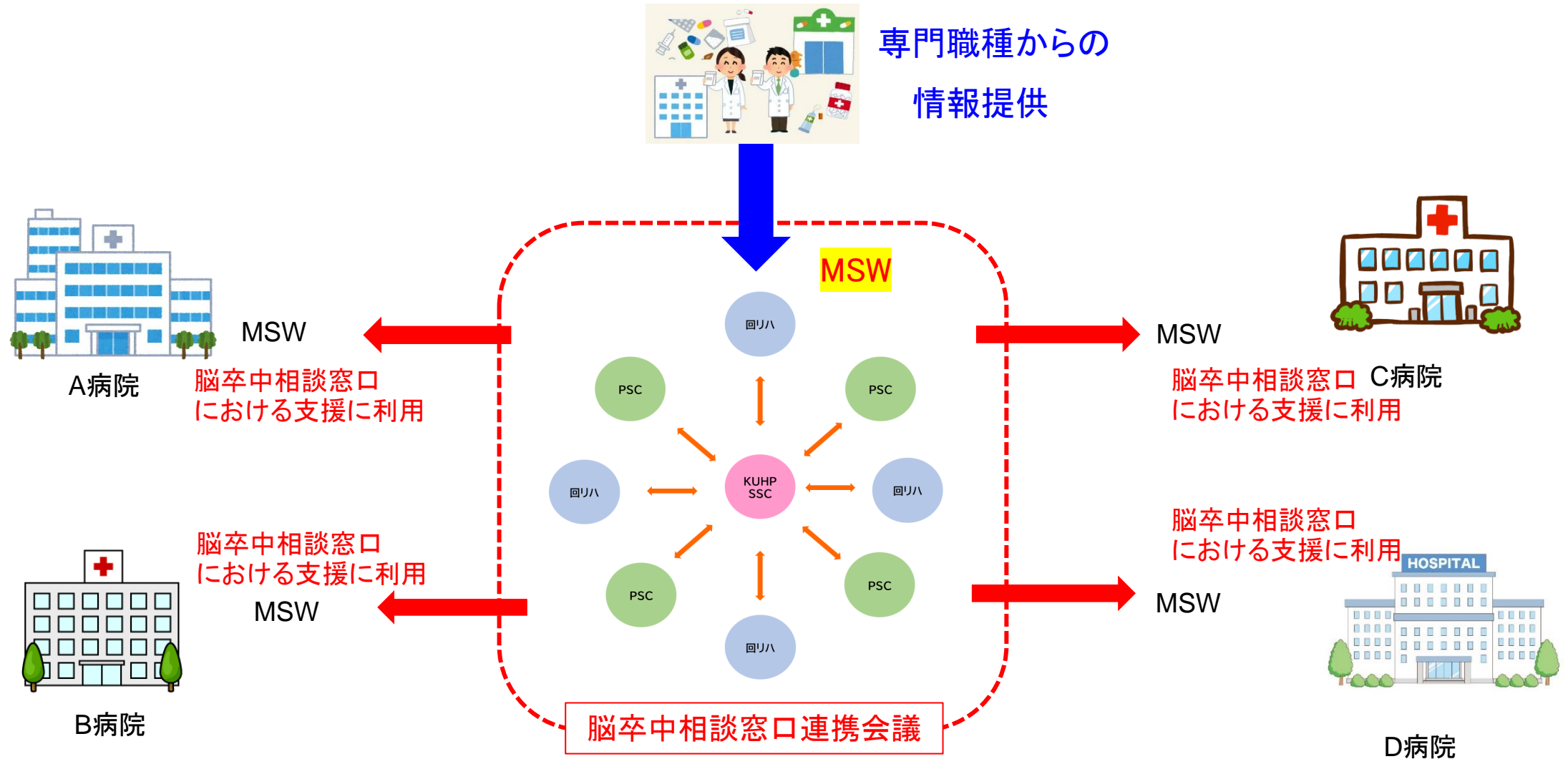
脳卒中相談窓口連携会議による脳卒中生活期かかりつけ医リストの共有

府内各地域の脳卒中地域連携の会に参加した
脳卒中生活期かかりつけ医リスト



脳卒中生活期かかりつけ医リスト を どの病院の脳卒中相談窓口でも情報提供

SCPA-Japan府県支部と脳卒中相談窓口連携会議をプラットフォームにした 専門職種情報の提供



専門職種のアイデア・情報を どの病院の脳卒中相談窓口でも情報提供

京都府 PSC/回復期リハビリテーション病院 専門職種の脳卒中連携会議

2023

2024

2025

脳卒中相談窓口連携会議(MSW)

- 第一回 2023.5
- 第二回 2023.9
- 第三回 2024.1
- 第四回(予定)

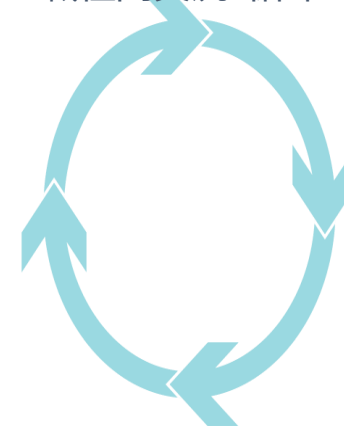
脳卒中連携薬剤師会議

- 第一回 2023.11
- 第二回 2024.3
- 第三回 2024.7

脳卒中連携看護師会議

- 第一回 2024.3

職種間交流・循環



多職種・
地域連携



調査等

▶ 両立支援調査(2023.10-2025.10)

▶ 摂食嚥下障害に関するアンケート調査

▶ 就労支援リハ調査(2024.10-2026.10)

第2期循環器病対策推進基本計画 概要

全体目標

2040年までに3年以上の健康寿命の延伸及び循環器病の年齢調整死亡率の減少

個別施策

循環器病：脳卒中・心臓病その他の循環器病

【基盤】循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備

循環器病の診療情報を収集・活用する公的な枠組みの構築

1. 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発

- 循環器病の発症予防及び重症化予防
- 子どもの頃から国民への循環器病に関する正しい知識（循環器病の予防、発症早期の適切な対応、重症化予防、後遺症等）の普及啓発の推進
- 循環器病に対する国民の認知度等の実態把握

3. 循環器病の研究推進

- 循環器病の病態解明、新たな診断技術や治療法の開発、リハビリテーション等に関する方法に資する研究開発の推進
- 科学的根拠に基づいた政策を立案し、循環器病対策を効果的に進めるための研究の推進

2. 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実

- ① 循環器病を予防する健診の普及や取組の推進
- ② 救急搬送体制の整備
- ③ 救急医療の確保をはじめとした循環器病に係る医療提供体制の構築
- ④ リハビリテーション等の取組
- ⑤ 循環器病の後遺症を有する者に対する支援
- ⑥ 循環器病の緩和ケア
- ⑦ 社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援
- ⑧ 治療と仕事の両立支援・就労支援
- ⑨ 小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策
- ⑩ 循環器病に関する適切な情報提供・相談支援

循環器病対策の総合的かつ計画的な推進の確保のために必要な事項

- (1) 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化
- (2) 他の疾患等に係る対策との連携
- (3) 感染症発生・まん延時や災害時等の有事を見据えた対策
- (4) 都道府県による計画の策定
- (5) 必要な財政措置の実施及び予算の効率化・重点化
- (6) 基本計画の評価・見直し

<循環器病の特徴と対策>



脳卒中相談窓口マニュアルに記載されたコンテンツの展開

2022年度

脳卒中相談窓口マニュアルの中で、

まずは疾患管理・予防に関する啓発・情報提供から着手

2023年度以後

脳卒中の特異な事情の配慮が必要な生活期支援

両立支援の整備

療養に関する説明と意思決定支援の連携整備



TOP > ガイドライン・提言・各種指針・手引き・推奨

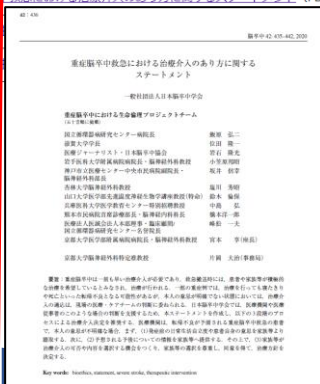
ガイドライン・提言・各種指針・手引き・推奨

★ ガイドライン

- 脳卒中における終末期医療に関するガイドライン (PDF/364KB)
- 脳卒中診療における遠隔医療 (Telestroke) ガイドライン (PDF/1,435KB)

★ ステートメント

- 自宅復帰後の脳卒中の維持期（生活期）における緩和と療養に関する提言 (PDF/290KB)
- 自宅復帰困難な後遺症を呈する脳卒中の維持期（生活期）における緩和と療養に関する提言 (PDF/303KB)
- 重症脳卒中救急における治療介入のあり方に関するステートメント (PDF/388KB)
- 重症脳卒中救急における治療介入のあり方に関するステートメント



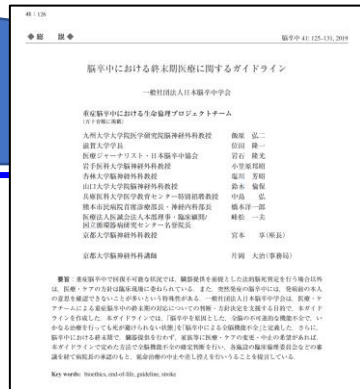
重症治療介入ステートメント

終末期GL

自宅復帰後の脳卒中の維持期（生活期）における緩和と療養に関する提言

自宅復帰困難な後遺症を呈する脳卒中の維持期（生活期）における緩和と療養に関する提言

重症脳卒中の維持期における緩和と療養に関する提言



急性期

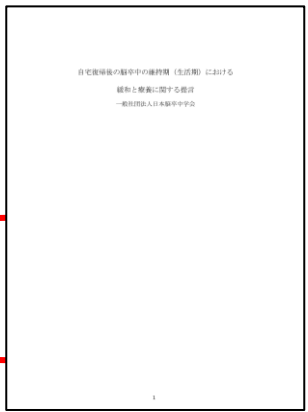
回復期

生活期
維持期

日本脳卒中学会が発出している
緩和と療養・生命倫理に関するGLや提言

軽症

重症



人生の最終段階における適切な意思決定支援の推進（入院料通則の改定②）

人生の最終段階における適切な意思決定支援の推進

➤ 人生の最終段階における適切な意思決定支援を推進する観点から、厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」（以下、「ガイドライン」とする。）等の内容を踏まえ、**意思決定支援に関する指針を作成することを要件とする入院料等の対象を見直す。**

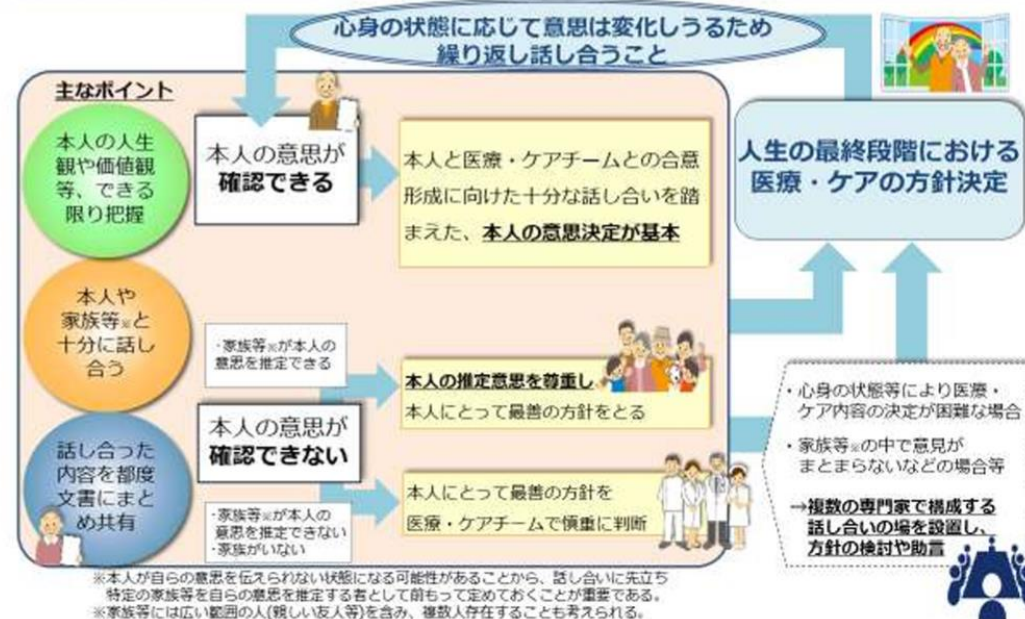
- ガイドライン等の内容を踏まえた**適切な意思決定支援に係る指針の作成を要件とする入院料の範囲を拡大**する。
- ガイドライン等の内容を踏まえた**適切な意思決定支援に係る指針の作成を、地域包括診療料等の要件に追加**する。

【指針の作成が要件となる対象】

- **入院料を算定する医療機関**※
 - ※ 小児特定集中治療室管理料、総合周産期特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、新生児治療回復室入院医療管理料、小児入院医療管理料又は児童・思春期精神科入院医療管理料を算定する病棟のみを有するものを除く。
- 以下の届出を行う医療機関
 - ・がん患者指導管理料
 - ・**地域包括診療料**
 - ・**地域包括診療加算**
 - ・**認知症地域包括診療料**
 - ・**認知症地域包括診療加算**
 - ・在宅療養支援診療所・病院

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」における意思決定支援や方針決定の流れ(イメージ図)(平成30年版)

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多専門職種からなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。



[経過措置] 令和6年3月31日において現に入院基本料又は特定入院料に係る届出を行っている病棟については、令和7年5月31日までの間に限り、意思決定支援に関する指針の作成の基準に該当するものとみなす。

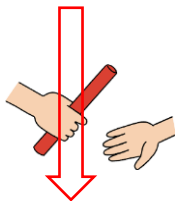
京都府脳卒中連携看護師会議with (公社)京都府看護協会

急性期病院



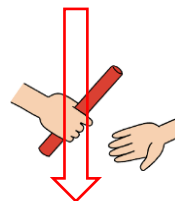
A病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)



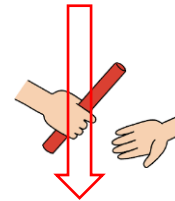
B病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)



C病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)



回復期病院



X病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)



Y病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)



Z病院

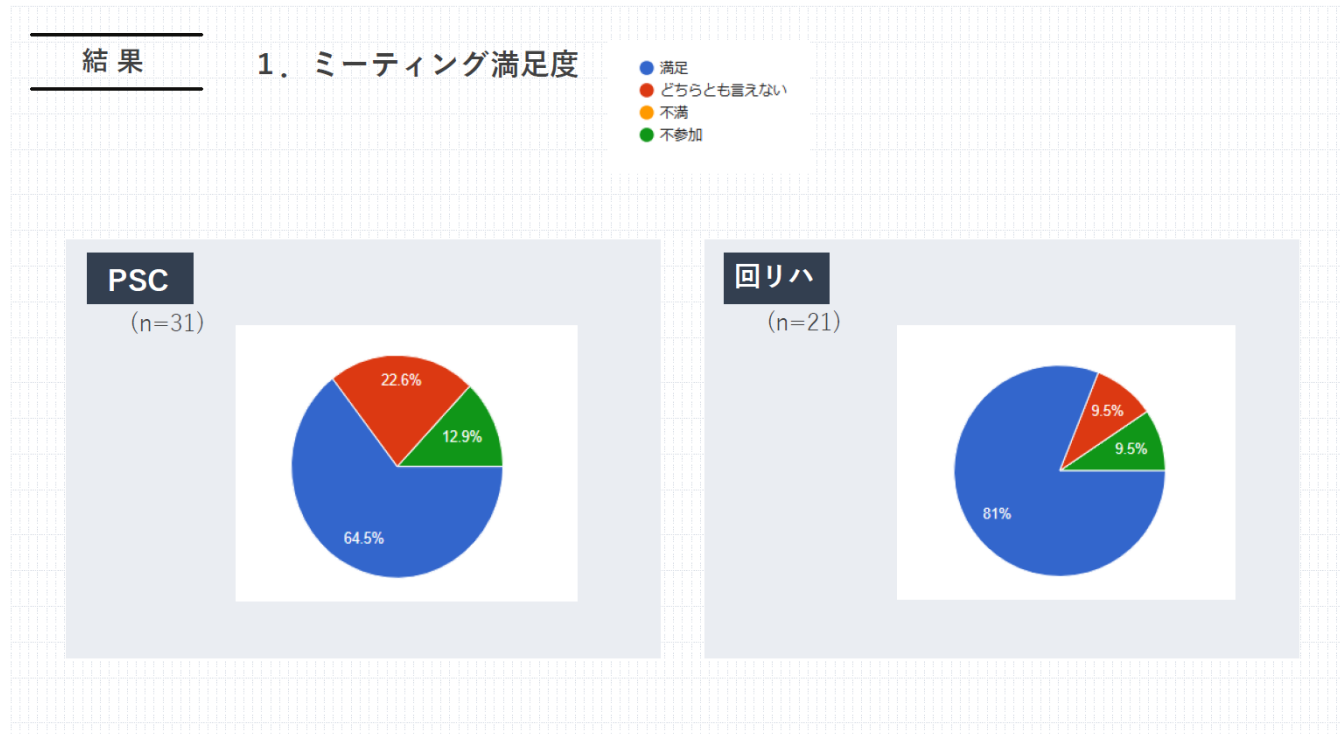
脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)

意思決定支援のバトンの共有

まず、看護サマリーで伝えるべき内容についての 意識共有を開始

第1回京都府 脳卒中連携 薬剤師会議

2023年11月13日（月）18:30～20:00



- PSC→回リハへの薬剤情報連携
- 回復期における服薬指導

○ 脳卒中患者の摂食嚥下障害に関するアンケート調査



- ▶ 実施期間: 2023.11~12月
- ▶ 対象: 京都府内連携会議参加 47機関
- ▶ 方法: Googleフォームにて実施 (記名回答式)
- ▶ 実施目的: 各医療機関における摂食嚥下に関する下記情報を調査・集計し、
京都府内の摂食嚥下医療資源リストとして共有する

- 人員配置(ST・栄養士)・組織体制
- 外来における医療資源状況 (実施可能な検査・リハビリ、栄養指導の実施有無 等)
- 医療機関間の情報伝達状況 (自院の食形態と学会分類コード*との対応表有無、
情報伝達手段、情報の内容・質 等)
- 摂食嚥下に関する支援や情報伝達の際の課題 等

○ アンケート調査結果の活用・展開について

▶ 詳細収集情報について：

(収集項目) 下記項目について、追加で情報収集

1. リハビリ内容

1-1. 実施しているリハビリ内容 (検査内容・訓練方法等)

1-2. 対象患者・利用条件 (疾患、ADL(経口摂取可能、座位可能等)等)

1-3. リハビリ実施体制 (開設曜日、定員等)

2. 依頼手順

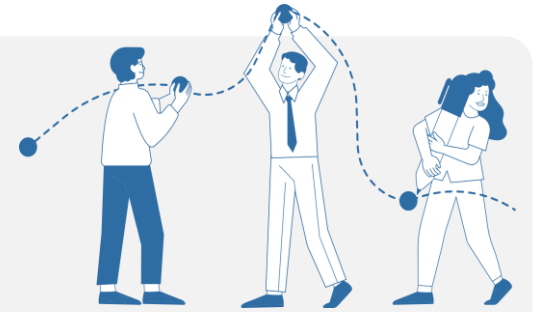
※ 医療機関からの紹介依頼限定？患者からの直接予約OK？

2-1. 相談手順 (例:窓口へ依頼→予約日程調整→初診外来受診、等)

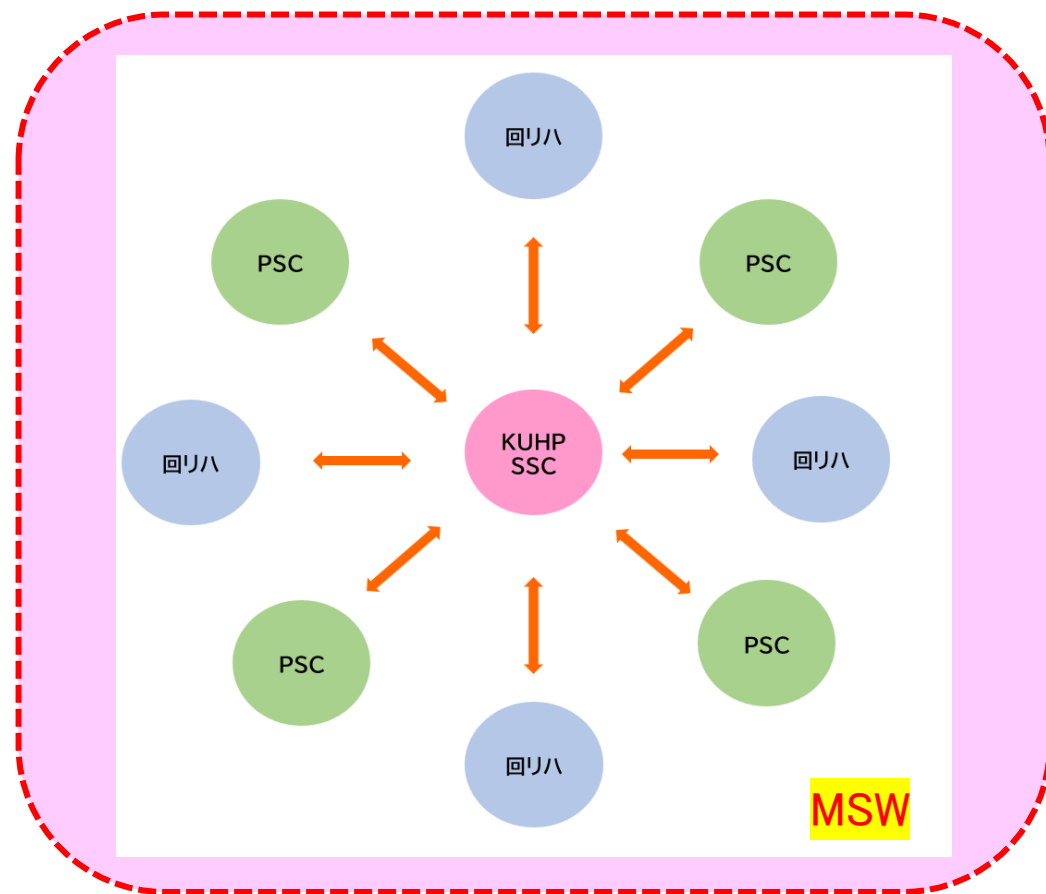
2-2. 依頼時の必要情報 (診療情報提供書、リハサマリー等)

3. 担当窓口

3-1. 担当窓口連絡先 (電話番号、ホームページアドレス等)



脳卒中多職種連携のエンジン(京都府)



脳卒中相談窓口連携会議

SCPA Japan京都府支部

- 一般社団法人 京都府医師会
- 公益社団法人 日本脳卒中協会京都府支部
- 一般社団法人 京都医療ソーシャルワーカー協会
- 公益社団法人 京都府介護支援専門員会
- 一般社団法人 京都府理学療法士会
- 一般社団法人 京都府言語聴覚士会
- 一般社団法人 京都府作業療法士会
- 一般社団法人 京都府薬剤師会
- 一般社団法人 京都府薬剤師会 病院診療所部会
- 公益社団法人 京都府栄養士会
- 公益社団法人 京都府看護協会

SCPA-Japan京都府支部

SCPA-Japan府県支部に期待されるもの

1) ネットワーク構築

地域における他職種との連携に関する
情報共有・意見交換・提案



“井戸端会議のようなシンクタンク”

- 2) 「脳卒中相談窓口連携会議」との連携による
各病院の脳卒中相談窓口への専門職種情報提供
- 3) 調査研究にあたり、各団体本部との情報共有

第5回脳卒中診療の明日へのシナリオin京都 ～医療・ケアに関する多職種・地域連携を考える～

2024年9月19日(木) 18:00 web

- 「京都府における脳卒中生活期連携主治医制の展開」
宮本 享 (京都大学医学部附属病院 脳卒中療養支援センター長)
- 「脳卒中生活期に必要とされる療養指導」
永金義成(京都第二赤十字病院脳神経内科部長)
- 「脳卒中診療における回復期病棟の薬剤師の役割と生活期との連携～現状と課題～(仮)」
藤原久登(昭和大学藤が丘病院薬剤部)

指定発言

- 「脳卒中生活期における薬薬連携～薬局薬剤師と病院薬剤師が力を合わせてできること～(仮)」
高谷真紀(こすも薬局音羽店)
- 「脳卒中における緩和と療養の地域連携について(仮)」
片岡大治 (国立循環器病研究センター脳神経外科部長)